



2020年度

K I P P対人関係精神分析セミナー

ご あ い さ つ

陽春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃よりKIPP対人関係精神分析セミナーに温かなご支援とご理解をいただき、厚く御礼を申し上げます。今年度で本セミナーは17年目を迎えました。これまで本セミナーを支えてくださった参加者の皆様、そして講師の先生方に深く感謝いたします。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

近年ますます複雑化する社会のなかで、人々が抱える悩みや葛藤、人間関係のトラブル、そして集団や組織の問題は多岐に渡り、「心の専門家」の関与なくしては解決が難しくなっています。「どの人もすべて何よりもまず端的に人間である」これは、対人関係論の創始者であるサリヴァンの基本的人間観を示す言葉です。同じ種として人間は他者との共存が宿命づけられており、基本的な動機として他者とのかかわりを求めているというのがこの言葉の示唆するところです。まさに人あるところに心の専門家ありということかもしれません。多様化する現場からのニーズに精神分析はどのように貢献できるか、私たちは今、こうした課題に直面しているのではないのでしょうか。

今年度のKIPP対人関係精神分析セミナーは臨床実践の基盤ともいえる「かかわること、遊ぶこと、抱えること」をテーマに全6回の講義を行います。哲学、学校臨床、児童思春期の集団精神療法、ジェンダー論や精神分析的治療関係の展開など、さまざまな視点からテーマを掘り下げていく予定です。

本セミナーでの学びが、複雑で、時に困難な日々の臨床現場に寄与することを願っております。多くの皆様にご参加いただけますよう、心よりお待ちしております。なお、本セミナーは臨床心理士の研修ポイントとして申請する予定です。



一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所

所長 横井 公一

研修委員会：今江秀和 伊藤未青 岡村香織 森真治 山岡亜里紗 小山恵 山下美穂

2020年度
KIPPセミナー「かかわること、遊ぶこと、抱えること」

日 程	時 間	講 師	講義テーマ
① 2020年 5月31日(日) 会場：未定	講義	鑪 幹八郎 (指定討論者：鈴木健一)	森有正との対話の試み
	事例検討		
② 2020年 7月19日(日) 会場：未定	講義	上田 勝久	ウィニコットの『遊ぶこと』 について考える
	事例検討		
③ 2020年 10月18日(日) 会場：未定	講義	西村 馨 川畑 直人	児童・思春期のセラピーグループで 『かかわること』『遊ぶこと』『抱えること』 発達障害児と保護者に対するグループセラピー
	事例検討		
④ 2020年 11月15日(日) 会場：未定	講義	北村 婦美	精神分析的ジェンダー論への序章 —ジェシカ・ベンジャミンを中心に
	事例検討		
⑤ 2020年 12月20日(日) 会場：未定	講義	中村 留貴子	精神分析的治療関係のはじまりと展開
	事例検討		
⑥ 2021年 2月21日(日) 会場：未定	講義	吾妻 壮 (指定討論者：横井公一)	かかわること、そして、かかわらないこと
	事例検討		

講 義	昼 食	事例検討
10:30～13:00	13:00～14:00	14:00～16:30

※第3回は講義時間内で2名の講師が担当します。

<講義内容>

第 1 回 2020 年 5 月 31 日 (日)

「森有正との対話の試み」

講 師 鑪 幹八郎

指定討論者 鈴木 健一

『森有正との対話の試み』（ナカニシヤ出版）を年末に出版しました。ご存知の日本のフランス哲学の研究者、哲学者です。「対話の試み」というのは、ややおこがましい表題ですが、森有正氏の見ている世界と私が精神分析家として仕事をしている世界は近い世界と思いました。森氏の大きな人生の転機が、日本とフランスないし、西欧世界との対決のような印象を与えます。それはまた日本の私たちへの挑戦のようにみえます。私としては、長年ずっと森さんと対話をしていると感じていました。それを心理臨床、精神分析の臨床家に見ていただき、批判をしていただきたいと思って書きました。私にとっても精神分析の出会いと実践は、西欧との出会いであり、自分の内なる日本との出会いと思っています。私と対話をしていただければ幸いです。

★参考テキスト

- | | | |
|-------------|---------------|----------------------|
| 森有正著（1982） | 『森有正全集』全 14 卷 | 筑摩書房 |
| 森有正著（1976） | 『いかに生きるか』 | 講談社現代新書 |
| 鑪幹八郎著（2019） | 『森有正との対話の試み』 | ナカニシヤ出版（著者割引で当日販売予定） |

第 2 回 2020 年 7 月 19 日 (日)

「ウィニコットの『遊ぶこと』について考える」

講 師 上田 勝久

周知のとおり、ウィニコットが語る精神分析および精神療法の治療機序は「遊べない患者」を「遊べる」ようにすることにある。「遊ぶこと」は内と外、空想と現実、私（me）と私でないもの（not-me）といった対極的な事柄が一様におさめられ、その力動的緊張が遊ばれている可能性空間において成立する事態である。それはたえずふたつ以上の事柄や領域を行き交う動きを意味している。

では、この「遊べること」は臨床状況においてはどのような形で現れるのだろうか。逆に「遊べない」とはどのような臨床像を指しているのだろうか。「遊ぶこと」について、理論と臨床素材をミックスさせながら検討していきたい。

★参考テキスト

- | | | |
|-------------------------|-----------|---------|
| D.W.ウィニコット著／橋本雅雄訳（1979） | 『遊ぶことと現実』 | 岩崎学術出版社 |
|-------------------------|-----------|---------|

第 3 回 2020 年 10 月 18 日 (日)

「児童・思春期のセラピーグループで

『かかわること』『遊ぶこと』『抱えること』」

講 師 西村 馨

集団場面や対人関係で傷つきを体験した子どもへの心理学的支援は個人面接に決まってる？いやいや、だからこそ、子どもは、グループという場において楽しめること、心を許せる友達を持つことを切に願っていることが多いです。ただし、いろんな意味で「遊ぶこと」ができなくなって、臆病になっています。そのため、「遊ぶこと」そのものが癒しになり、仲間と「かかわること」そのものが成長をもたらします。そんなの分析的セラピーじゃない？ いやいや、セラピストがそのような場を作って、気持ちを「抱えること」に努めることは、もっとも「分析的」な営みなのではないでしょうか？ そういう観点から、子どものセラピーを考えたいと思います。

★参考テキスト

藤信子・西村馨・樋掛忠彦編著 日本集団精神療学会編集委員会監修 (2017)

『集団精神療法の実践事例 30』 創元社

「発達障害児と保護者に対するグループセラピー」

講 師 川畑 直人

さまざまな発達特性により学級集団に適応しづらい児童とその保護者を対象に、2005 年より続けている「すきっぷ (SKIPP: Sodatsu Kokoro in Peer Program)」の活動をふり返り、子どもや親を支援するグループの力について考えてみたいと思います。このプログラムを考えるにあたって、前青年期のチャムの重要性を指摘し、精神科病棟でのチームアプローチを主導したサリヴァンの発想は大いに役立ちました。このセミナーでは、子グループ、親グループの進行を追いながら、参加者、スタッフを含めた集団の力動について、微細な検討ができればと考えています。

★参考テキスト なし

第 4 回 2020 年 11 月 15 日 (日)

「精神分析的ジェンダー論への序章—ジェシカ・ベンジャミンを中心に」

講 師 北村 婦美

いま私たち臨床家のもとを訪れる人たちは、従来男性性、女性性の枠組みがさまざまな意味で大きく揺らぐ時代を生きています。けれども現代の精神分析的臨床においてそれをどうとらえ、そうした方々の語りをどう受け止めるのかを、日本の専門家集団の中で検討しあう機会はありませんでした。

本講ではフロイトに始まる精神分析が、社会とのインタラクションの中でこれまで男性性、女性性といったテーマをどのように扱ってきたのかを振り返り、その一つの到達点としてジェシカ・ベンジャミンの論を紹介し、それが relational turn(関係性への転回)と呼ばれる思潮にどのように寄与したのかを見てゆきます。

★参考テキスト

ジェシカ・ベンジャミン著／北村婦美訳 (2018) 『他者の影』 みすず書房

第 5 回 2020 年 12 月 20 日 (日)

「精神分析的治療関係のはじまりと展開」

講 師 中村 留貴子

精神分析的な心理療法では通常まずは数回のアセスメント面接を行い、見立てや見通しとともにクライアントをなるべく全体的、立体的に理解し、必要に応じて継続的な面接を提案します。そこから始まる治療関係はどのようにして育んでいくことができるのか、なるべく事例を通して改めて考えてみたいと思います。その展開は病態水準やパーソナリティによってさまざまですし、予想通りのこともあれば覆されることもあります。治療関係の中で生まれる“何か”について考えてみたいと思います。

★参考テキスト

藤山直樹・中村留貴子監修 (2014) 『事例で学ぶアセスメントとマネジメント』 岩崎学術出版社
吾妻壮著 (2018) 『精神分析的アプローチの理解と実践』 岩崎学術出版社

第 6 回 2021 年 2 月 21 日 (日)

「かかわること、そして、かかわらないこと」

講 師 吾妻 壮
指定討論者 横井公一

かかわること、遊ぶこと、抱えること—これらはどれも、精神分析および精神分析的セラピーにとって大変重要なことである。しかし、精神分析的臨床においてそれらが本質的に何を意味するのかは、言葉の表面の平易さとは裏腹に、実はそれほど明確ではない。それらの反対物—かかわらないこと、遊ばないこと、抱えないこと—を想像してみると役に立つかもしれない。そうすると、かかわり、遊び、そして抱えるということの意味は、その不可能性を背景に浮かび上がるものであることが分かる。本セミナーでは、そのような対立概念の間の振動を念頭に、かかわること、遊ぶこと、抱えることについて考えてみたい。

★参考テキスト

吾妻壮著 (2019) 『精神分析の諸相—多様性の臨床に向かって』 岩崎学術出版社

<講師紹介>

吾妻 壮 Agatsuma, Soh 精神科医・精神分析家・日本精神分析協会正会員・国際精神分析協会正会員

所属 上智大学総合人間科学部心理学科

著書 『精神分析の諸相－多様性の臨床に向かって』（金剛出版）／『精神分析的アプローチの理解と実践－アセスメントから介入の技術まで』（岩崎学術出版社）／『精神分析における関係性理論』（誠信書房）／『臨床場面での自己開示と倫理－関係精神分析の展開』共著／『関係精神分析入門』共著（岩崎学術出版社）

訳書 P. M. ブロンバーク『関係するところ』（誠信書房）／J.リア『開かれた心』（里文社）

B. ビービー他『乳児研究から大人の精神療法へ－間主観性さまざま』（岩崎学術出版社）

川畑 直人 Kawabata, Naoto

臨床心理士・公認心理師・教育学博士・WAWI 精神分析家・WAWI 児童青年心理療法家

所属 京都文教大学／一般社団法人京都精神分析心理療法研究所／（有） ケーアイピーピー

著書 『対人関係精神分析の心理臨床』監修（誠信書房）／『臨床心理学』共著（培風館）

訳書 S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる』監訳／F. パイン『欲動・自我・対象・自己』監訳（創元社）

北村 婦美 Kitamura, Fumi 精神科医・臨床心理士

所属 東洞院心理療法オフィス／太子道診療所

訳書 N. マックウィリアムズ『パーソナリティ障害の診断と治療』共訳／N. シミントン『分析の経験－フロイトから対象関係論へ』共訳／D.N. スターン『母親になるということ』（創元社）他多数

中村 留貴子 Nakamura, Rukiko 臨床心理士

所属 千駄ヶ谷心理センター（SPC）

著書 『事例で学ぶアセスメントとマネジメント』共編（岩崎学術出版社）

西村 馨 Nishimura, Kaoru 臨床心理士・（社）日本集団精神療法学会スーパーバイザー

所属 国際基督教大学教養学部

著書 『集団精神療法の実践事例 30』共編（創元社）

訳書 アメリカ集団精神療法学会『AGPA 集団精神療法実践ガイドライン』共訳（創元社）

鈴木 健一 Suzuki, Kenichi 臨床心理士・心理学博士・WAWI 精神分析家

所属 名古屋大学学生支援センター

訳書 S. ビューチュラー『精神分析臨床を生きる－対人関係学派からみた価値の問題－』（創元社）

M. ブレッシュナー『夢のフロンティア－夢・思考・言語の二元論を超えて－』（ナカニシヤ出版）

鑪 幹八郎 Tatara, Mikihiro 教育学博士・WAWI 精神分析家

所属 ふたばの里精神分析研究室室長／広島大学名誉教授／京都文教大学名誉教授

著書 著作集『第1巻 アイデンティティとライフサイクル論』／『第2巻 精神分析と心理臨床』／『第3巻 心理臨床と倫理・スーパーヴィジョン』／『第4巻 映像・イメージと心理療法』／『森有正との対話の試み』（ナカニシヤ出版）他多数

訳書 H. S. サリヴァン『精神医学は対人関係論である』共訳（みすず書房）他多数

上田 勝久 Ueda, Katsuhisa 臨床心理士・公認心理師

所属 兵庫教育大学

著書 『心的交流の起こる場所－心理療法における行き詰まりと治療機序をめぐって』（金剛出版）

訳書 D. メルツァー『精神分析と美』（みすず書房）

横井 公一 Yokoi, Koichi

精神科医・臨床心理士

所属 浜寺病院

著書 『臨床場面での自己開示と倫理－関係精神分析の展開』共著／『関係精神分析入門』共著（岩崎学術出版社）

訳書 J. グリーンバーグ& S. ミッチェル『精神分析理論の展開』／S. ミッチェル『精神分析と関係概念』『関係精神分析の視座』（ミネルヴァ書房）他

<会場案内>

キャンパスプラザ京都（JR・近鉄・地下鉄各線京都駅より徒歩約5分）

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル 【Tel】 075-353-9111

YIC 京都工科自動車大学校（JR・近鉄・地下鉄各線京都駅より徒歩約5分）

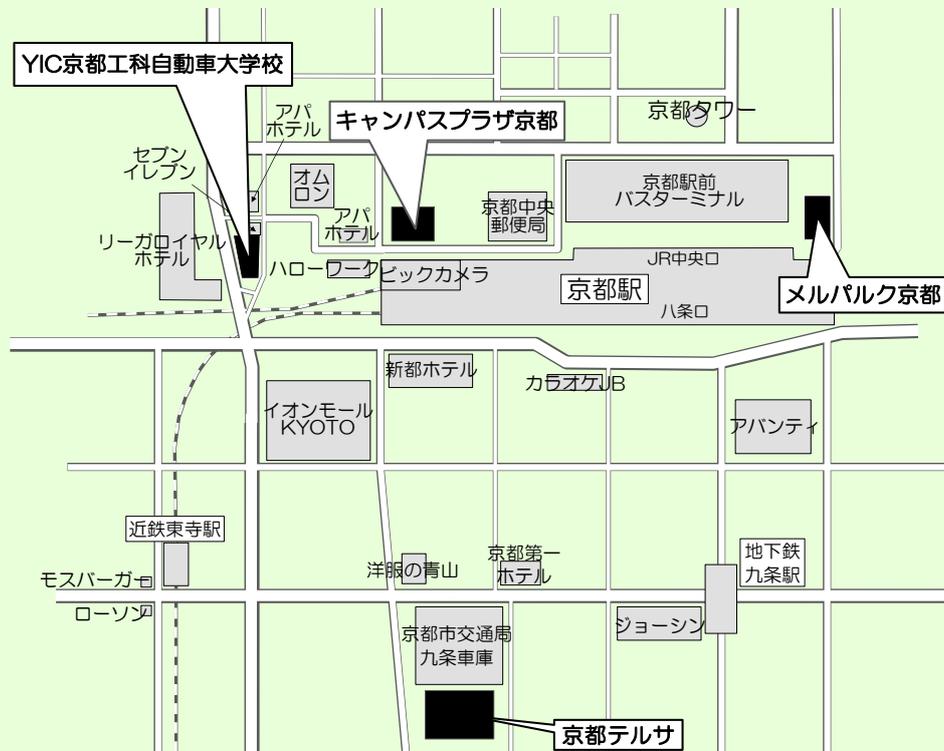
〒600-8236 京都府京都市下京区西油小路町 27 【Tel】 075-371-4040

京都テルサ（JR 京都駅八条口西口より南へ徒歩約15分、近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分）

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町 70 番地 京都府民総合交流プラザ内 【Tel】 075-692-3402

メルパルク京都（JR 京都駅烏丸中央口より東へ徒歩約1分）

〒600-8216 京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町 676 番 13 【Tel】 075-352-7444



※上記いずれかの京都駅近辺の会場で行う予定です。

※会場は決定次第、ホームページ <https://www.kippkyoto.org/>に掲載いたします。お申し込みをされた方には、e-mail、郵送等で通知いたします。

< 受講申込要領 >

対 象 臨床心理士、公認心理師、精神科医、その他の医療・教育・福祉等で心理臨床に関わっている方。または、それに関わる学生、大学院生。事例の守秘を守る方。

申込方法

① 申込フォーム

右記 QR コードから、必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。



② e-mail

同封の「申込用紙」を e-mail に添付、または必要事項を e-mail にご記載の上、お申込みください（必ず **PC の e-mail アドレス** をご記入ください）。受付後、振込先を e-mail にてお知らせするとともに、申込受付票を PDF にてお送りいたします。

③ Fax・郵送

同封の「申込用紙」に必要事項をご記入の上、お申込みください。受付後、振込用紙と申込受付票をお送り致します。

申込期限

各セミナーの当日から 2 週間前まで

※定員に達した場合は申込期限より早めに締め切ることがございます。

申込・問合せ

〒612-8083 京都市伏見区京町 4 丁目 156 番地 1 桃山ビル 3F

KIPP 桃山心理オフィス内 一般社団法人 京都精神分析心理療法研究所研修委員会

(Tel & Fax) 075-623-0823

(e-mail) info@kippsyoto.org

(HP) <https://www.kippsyoto.org/>

受講料

参加区分	各回
一 般	7,000 円
学生・修士卒業後 5 年以内	6,000 円

払込期限

お申し込み受付後に振込先と合わせてご連絡いたします。

- 受講時、申込受付票(印刷したもの、携帯端末画面での表示)をお持ちください。引き換えに名札兼研修証明書をお渡しします。
- 一度納入いただきました受講料は原則として返金致しかねますので、あらかじめご了承ください。

会場受付開始時間

講義開始時間の 15 分前より開始いたします。

本案内は、過去のセミナー参加者名簿の情報をもとにお送りしています。以後、案内送付を希望されない方は、恐れ入りますが事務局までご連絡ください。

*案内の送付をご希望の方は、事務局にご連絡いただければ、案内送付リストに加えさせていただきます。